

小竹町 舗装個別施設計画書

令和2年2月

小竹町

目 次

1. 舗装の現状と課題

- 1.1 管理道路の現状
- 1.2 舗装修繕予算の現状
- 1.3 舗装の現状

2. 舗装の維持管理の基本的な考え方

- 2.1 舗装管理の基本方針
- 2.2 管理道路の分類（グループ分け）
- 2.3 管理基準
- 2.4 点検方法・点検頻度
- 2.5 使用目標年数（分類Bの道路）

3. 計画期間

- 3.1 計画期間
- 3.2 計画期間内の修繕費用の見通し

4. 対策の優先順位（修繕計画の方針）

5. 舗装の状態、対策内容、実施期間

- 5.1 診断結果
- 5.2 対策内容と実施時期

1. 舗装の現状と課題

1.1 管理道路の現状

○管理延長と舗装延長

本町が管理する道路は総延長約115kmあり、その内91.9%が舗装された道路となっています。

町内の道路は町の発展とともに交通状況の変化や経年劣化などにより、舗装の修繕が早急に必要箇所が年々増え続けています。

しかしながら、舗装の老朽化の進行に対し、修繕などの維持管理が追いつかない状況となっています。

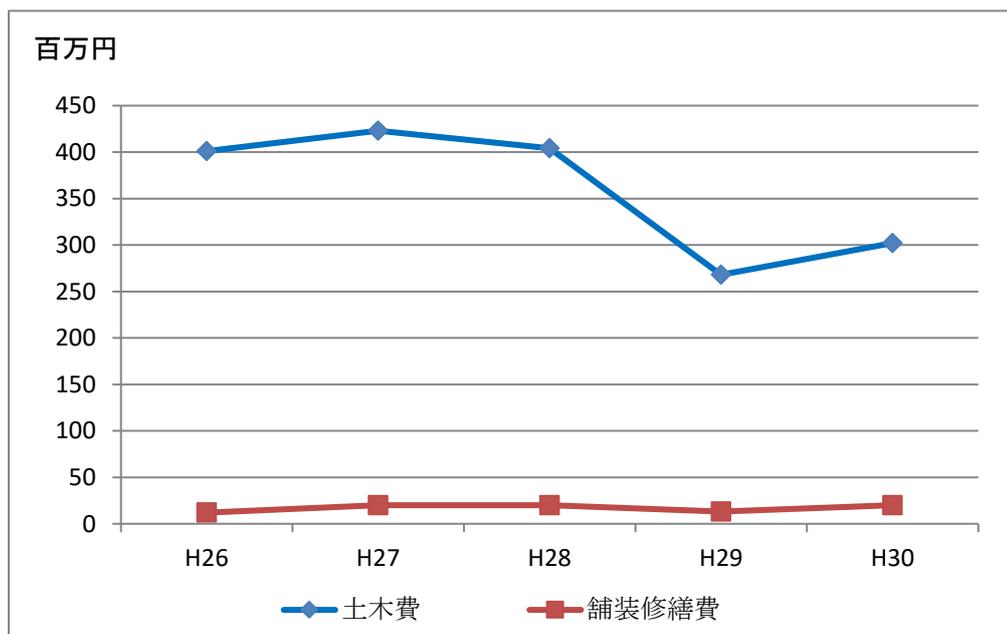
平成31年3月現在

道路区分	管理延長 (m)	舗装済延長 (m)	舗装率 (%)
1級町道	22,704.0	22,549.0	99.32
2級町道	12,480.5	12,480.5	100.00
その他町道	80,012.5	70,788.3	88.47
計	115,197.0	105,817.8	91.86

※小竹町道路台帳より

1.2 舗装修繕予算の現状

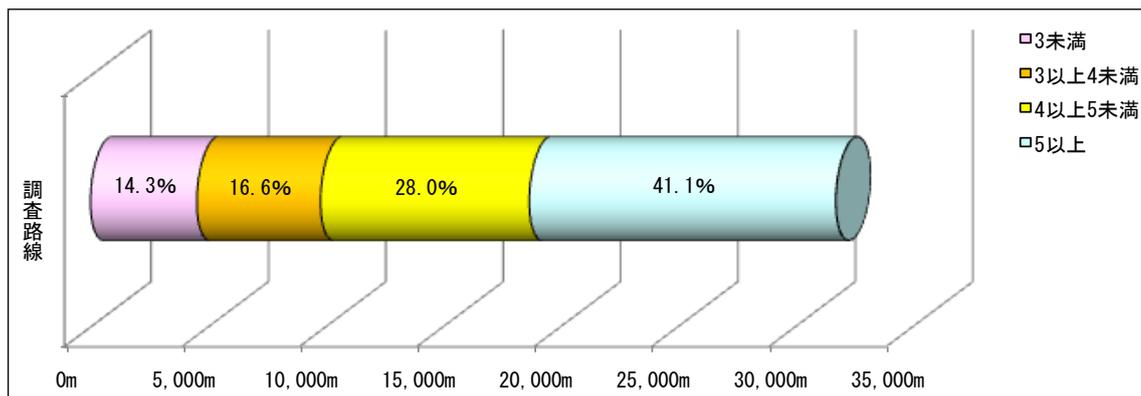
全体の土木費は年々減少傾向にあるが、その内舗装修繕費の割合は小さく、ほぼ同程度の予算で推移している状況となっています。



1.3 舗装の現状

本町では、令和元年度に町道の約3割におけるL=32kmにおいて路面性状調査を実施しました。その結果、約14.3%の道路において早急な修繕【区分Ⅲ】が必要とされています。

【管理道路のMCI評価グラフ】



MCI評価による舗装修繕基準

MCI値	舗装修繕の判断	診断結果
$5 \leq MCI$	望ましい管理水準	区分Ⅰ
$4 \leq MCI < 5$	修繕を行うことが望ましい	区分Ⅱ
$3 \leq MCI < 4$	修繕が必要	
$MCI < 3$	早急に修繕が必要	区分Ⅲ

2. 舗装の維持管理の基本的な考え方

2.1 舗装管理の基本方針

舗装の個別施設計画の策定にあたっては、診断結果を踏まえた適切な措置を行うことで、舗装道路の長寿命化や舗装の維持修繕費のライフサイクルコスト縮減を目指します。

2.2 管理道路の分類（グループ分け）

道路種別、大型車交通量を踏まえ分類

分類	対象道路
分類Cの道路	1級町道(2車線), 2級町道(2車線), その他町道(2車線)
分類Dの道路	1級町道(1車線), 2級町道(1車線), その他町道(1車線)

2. 3 管理基準

下記の基準を標準的な指標とし、道路の特性に応じた効率的な修繕を実施する。

	M C I
管理基準値	5 未満

2. 4 点検方法・点検頻度

	点検方法	点検頻度
分類Cの道路	目視点検	5年に1度
分類Dの道路	巡視の機会を通じた路面状況把握	

2. 5 使用目標年数（分類Bの道路）

○分類Bの道路：該当なし

3. 計画期間

3. 1 計画期間

当該個別施設計画の計画期間は、5年とする。

3. 2 計画期間内の修繕費用の見通し

診断結果を基にした修繕費用を以下のように見通し、優先順位を定めることにより計画的な修繕を行い、修繕費用の平準化を図る。

また、今後の点検結果や社会情勢等により、実施時期の再検討を行うなど効率的な修繕を実施し、費用縮減を図る。

(単位：百万円)

R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
20	20	20	20	20

4. 対策の優先順位（修繕計画の方針）

- ・舗装損傷状況、路線の重要性、交通量等を考慮し補修の優先順位を決定する。
本町では、令和元年度に実施した路面性状調査結果、路線の重要性や交通量等を考慮・判断し、舗装修繕等の維持管理を行います。

5. 舗装の状態、対策内容、実施時期

5. 1 診断結果

現在の舗装の状態を管理道路の分類と損傷区分毎に集計した結果は以下のとおり。

(延長：km)

	区分Ⅰ	区分Ⅱ	区分Ⅲ	計
分類Cの道路	4.3	10.8	9.5	24.6
分類Dの道路	0.2	3.4	3.5	7.1
計	4.5	14.2	13.0	31.7

区分Ⅰ：健全—損傷レベル小

区分Ⅱ：表層機能保持段階—損傷レベル中

区分Ⅲ：修繕段階—損傷レベル大

5. 2 対策内容と実施時期

○措置が必要な箇所一覧

措置が必要な箇所は、下表に示すとおり。

・令和2年～令和6年に処置を実施予定の路線一覧表

1級：10路線：L=13.02km 2級：11路線：L=5.68km

路線種別	路線番号	路線名	分類	調査延長	点検実施時期 (又は把握)	処置が必要な延長	診断結果 (区分)	処置内容	
1級	1	御徳・中泉線	C	1,661.0m	令和元年	996.0m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
	2	権現堂幹線	C	2,421.6m	令和元年	1856.5m	Ⅱ、Ⅲ	舗装打変え (路盤含む)	
	4	南良津・新山崎線	C D	2,523.9m	令和元年	1138.4m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
	5	千俗・塩頭線	C	2,333.4m	令和元年	2117.5m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
	6	中島・芦北幹線	C D	3,595.3m	令和元年	2070.0m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
	7	勝野・塩頭線	C D	1,273.7m	令和元年	592.8m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
	8	中山幹線	C	1,115.5m	令和元年	915.5m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
	9	管牟田幹線	C D	1,501.3m	令和元年	1401.3m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
	11	南良津・勝野幹線	C	3,141.5m	令和元年	1670.0m	Ⅱ、Ⅲ	切削オーバーレイ (2層)	
	12	勝野・勢田線	C	922.1m	令和元年	260.0m	Ⅱ	表層打変え	
	2級	102	赤地幹線	C D	1,507.7m	令和元年	1282.7m	Ⅱ	表層打変え
		103	御徳工場団地・権現堂2号線	C	991.6m	令和元年	991.6m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え
104		御徳幹線	C D	996.4m	令和元年	360.0m	Ⅱ	表層打変え	
106		南良津1号線	C D	785.3m	令和元年	323.3m	Ⅱ	表層打変え	
107		福才寺線	C D	598.3m	令和元年	501.1m	Ⅱ	表層打変え	
109		勝野・新多線	D	1,041.2m	令和元年	200.0m	Ⅱ	表層打変え	
111		赤地・鴻ノ巣線	D	777.5m	令和元年	300.0m	Ⅱ	表層打変え	
112		水落・西ノ前線	C D	741.7m	令和元年	300.0m	Ⅱ、Ⅲ	表層打変え	
114		草場裏・大浦線	C	823.0m	令和元年	589.2m	Ⅱ	表層打変え	
115		大浦・明ヶ坂線	D	801.4m	令和元年	701.4m	Ⅱ	表層打変え	
116		小竹駅1号線	C	426.1m	令和元年	126.1m	Ⅱ	表層打変え	
合 計				29,979.5m		18,693.4m			

○対策必要箇所

別図のとおり。

(別図を添付)